

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【那賀振興局】いちご花芽検鏡研修会を開催

令和5年9月号

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～	
2. 柑橘の生育状況調査	
3. リーダー研修会（和海地方生活研究グループ連絡協議会）でヴィーガン料理に触れる	
4. いちごの花芽検鏡を実施	
II 那賀振興局	3
1. いちご花芽検鏡研修会を開催	
2. 那賀地方4Hクラブ連絡協議会が他地域と交流	
III 伊都振興局	4
1. 働く人のための野菜作り講習会を開催	
IV 有田振興局	5
1. 有田地方生活研究グループ連絡協議会が先進地研修会を日高地域で開催	
2. カメモシビーティング調査を実施	
V 日高振興局	6
1. 青年農業者能力向上実践講座「農トレひだか」第2回セミナーを開催	
2. 「アッセンブル日高」がトレビスの試験栽培を開始	
VI 西牟婁振興局	7
1. 第29回SUN・燦（さんさん）紀南農業者の集いを開催	
2. クビアカツヤカミキリ現地研修会を実施	
VII 東牟婁振興局	8
1. 重点プロジェクト【新規就農者育成を核としたイチゴの産地育成】 ～みくまの産地協議会、第3期修了生との面談会を開催～	
2. いちごの花芽分化程度を確認	
VIII 農林大学校	9
1. 2年生市場研修を実施	
IX 農林大学校就農支援センター	10
1. 技術修得研修（第1班）の営農計画発表会/閉講式	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～

9月5日、海南市下津町内の温州みかん園地において「匠の技 伝道師」橋詰 孝氏による研修会を開催し、生産者27名の参加があった。

本研修会は主要な作業時期別に開催しており、今回はみかんの枝つき作業について行った。橋詰氏は無摘果での栽培にもかかわらず毎年安定した収量を確保している。その技術の一つとして枝つきがある。

研修会では農業水産振興課の萩平普及指導員から今回の研修会の目的と産地の状況を説明した後、橋詰氏から自園の栽培方法と枝つきの解説が行われた。

橋詰氏は「摘果しなくても毎年安定して採れている。果実の重みで枝が垂れるので枝つきで対応する。実をたくさんならせる分肥料をしっかり適期に施用することが大事」との話があった。

その後、参加者は枝つき作業に挑戦。参加者同士で紐の結び方を教えあうなど農業者の交流の場にもなり、有意義な研修会となった。



樹体を前に枝つきの方法を説明

2. 柑橘の生育状況調査

海草地域ではJA、振興局、NOSA I、市町、試験場などの関係機関が連携し、開花期から一年間を通して柑橘類の生育や肥大の推移、品質等の調査を行っている。その結果は、栽培指導や生産量の予測に役立てている。

9月は着果量と果実の肥大・品質調査を行った。本年は6月2日の大雨により樹の流失など、生産基盤そのものに被害をうけた生産者も多く、その影響は少なくなかった。

その後は比較的天候にめぐまれ、病害虫の発生もなく、生育は良好に推移している。今回の調査においても着果量は裏年にあたるものの比較的確保できており、肥大・品質も良好であった。

今後は、カメムシの発生が懸念されていることや、気象予報では気温が高く推移する見込みであることなどから、出荷まで適期適正管理を啓発していく。



着果状況調査

3. リーダー研修会（和海地方生活研究グループ連絡協議会）でヴィーガン料理に触れる

9月15日、和海地方生活研究グループ連絡協議会はヴィーガン料理（ヴィーガン：可能な限り食べ物・衣服などに動物の搾取を取り入れないようにする生き方）についての知見を広めようと、紀美野町にある「Leaves of grass KIMINO」でリーダー研修会を開催し、会員13名が出席した。

エグゼクティブシェフの大平哲雄氏から、ヴィーガン料理のルーツは精進料理にあることや環境負荷低減を目指していることなどを伺った後、料理の試食を行った。

料理はいずれも素材や調理法にこだわっており、味もさることながら見た目も美しくかった。会員からは「野菜と果物だけでは思えないほど色々な風味や食感がしてとてもおいしかった」などの感想があった。また、材料は何を使っているのか、どのように調理しているのかなど給仕の方に質問し書き留めていた。

今回の研修会では、地域食材の新たな調理方法等を知ることができた。今後の生研グループによる地産地消の取組の中で、今回の知見を活かしてもらえることを期待する。



大平シェフからのお話



ヴィーガン料理の数々

4. いちごの花芽検鏡を実施

9月19日、農業試験場において、海草管内のいちごの花芽検鏡を行った。花芽検鏡は、顕微鏡で花芽分化のステージを観察し、定植時期を決める大切な作業である。

この日は、管内の生産者の苗26株について、農業試験場の職員1名と農業水産振興課の職員3名で検鏡した。検鏡した結果をもとに、各生産者に定植時期の目安を伝えた。今年は、全体的に花芽分化が遅れている傾向にあった。



花芽検鏡の様子

Ⅱ 那賀振興局

1. いちご花芽検鏡研修会を開催

近年、管内ではいちごの新規就農者増加に伴って検鏡数が増加しており、生産者自身による検鏡体制の構築が急務となっている。そこで、9月8日、農業水産振興課ではいちご栽培を学ぶ研修生10名およびいちご生産者6名を対象に、花芽検鏡研修会を午前午後の二部制で開催した。

まず、嶋本副主査が花芽分化の生理や検鏡方法について動画を用いて説明した後、検鏡の実演を行った。参加者はスマートフォンで作業風景を撮影するなど、熱心に説明を受けていた。その後、参加者は各々検鏡に挑戦した。当初、不慣れな実体顕微鏡の扱いに苦戦し、諦める声も聞かれたが、最終的に5名が検鏡に成功した。参加者からは、「検鏡を通じてイチゴの生理を理解できた」、「もっと練習し、検鏡できるようになりたい」などの声が聞かれた。

農業水産振興課では来年度以降も花芽検鏡研修会を開催し、検鏡ができる生産者の育成に取り組んでいく。



熱心に説明を受ける研修生



花芽検鏡に挑戦する生産者

2. 那賀地方4Hクラブ連絡協議会が他地域と交流

9月22日、那賀地方4Hクラブ連絡協議会では他地域との交流を目的に、和歌山地方4Hクラブ連絡協議会、有田地方4Hクラブ連絡協議会と合同で交流会を開催し、那賀地方5名、和歌山地方2名、有田地方6名の出席があった。

交流会ではまず、各協議会で最近開催した研修会や、その研修会を開催するに至った経緯などが紹介され、その後、参加者それぞれが栽培品目を含めた自己紹介を行い、連絡先を交換するなど親睦を深めた。

今回の交流会で得た知識と人脈が、今後の会活動に活かされることが期待される。



3地方の4Hクラブで交流

Ⅲ 伊都振興局

1. 働く人のための野菜作り講習会を開催

9月22日、橋本市教育文化会館において、「働く人のための野菜作り講習会」が橋本市役所の主催で開催され、山田主査が講師として、農薬の種類や効果、病害虫の生態、農薬の適正使用について講義を行った。

講習会には、高野山麓精進野菜の生産希望者や新規就農者、これから野菜づくりを始めようとする会社員など、9名が参加した。

講義後の質疑応答では、「病害虫の薬剤抵抗性が発達する原因について」などの質問があり、受講者は病害虫と農薬の利用方法について理解を深めた。

今後も関係機関と連携し、講習会を通じて高野山麓精進野菜の振興と新規就農者の育成に取り組む。



講義の様子

IV 有田振興局

1. 有田地方生活研究グループ連絡協議会が先進地研修会を日高地域で開催

9月4日、標記研修会が会員24名参加のもと開催された。特産品利用の取組を学ぶため、道の駅「みなべうめ振興館」にて、梅染め愛好会永井俊子講師から梅の皮を煮出した汁で布を染める「梅染」の説明を受けた後、実際に体験した。次に農産物直売所の形態や販売方法を学ぶため、かつお節発祥の地である印南町の漁港内に建設された観光交流施設「かえるの港」を訪れ、同施設の展示や販売促進について見学した。

また、県内食品企業の取組を学ぶため、日高川町の(株)たにぐちを訪れ、チョコレートで作成した装飾品(オーナメントチョコレート)の製造方法について説明を受けながら工場内を見学した。

会員からは「県特産品である梅の有効活用法や、繊細かつ高度な技術でチョコレートの飾りを作る行程など、初めて見る事が多く貴重な機会となった」という感想が聞かれた。



梅染体験の様子(右:講師の永井氏)



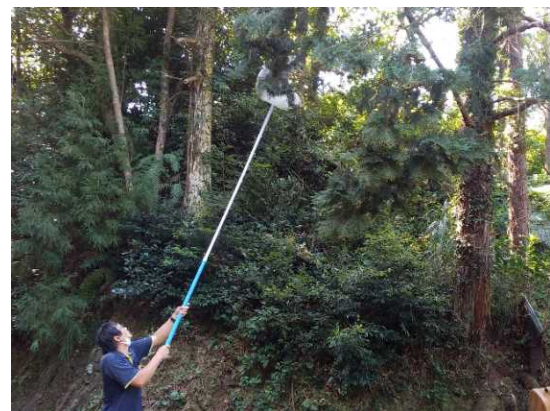
「かえるの港」を見学する会員

2. カメムシビーティング調査を実施

9月27日、有田農業技術者会(会長:中井 淳氏、JAありだ営農指導員)において、カメムシビーティング調査を実施した。

有田農業技術者会は、JAありだ、JAグループ和歌山農業振興センター、NOSA Iわかやま中部支所、有田川土地改良区、有田中央高校、近畿大学附属農場湯浅農場、県果樹試験場、有田振興局農業水産振興課の技術者で構成され、有田地方の農業の発展・振興を目的に活動している。

調査は、温州みかんなどの果実を加害するカメムシ類を対象に、広川町と有田川町のスギ・ヒノキの山林15カ所で実施した。今年、スギ・ヒノキの球果は15地点中8地点で「多」となり、カメムシ捕獲数は36頭で、平年の11頭に比べ多かった。今回の調査結果はホームページ「有田みかんデータベース」へ掲載している。



捕虫網によるビーティング調査

V 日高振興局

1. 青年農業者能力向上実践講座「農トレひだか」第2回セミナーを開催

9月7日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：尾曾 匠氏）と日高振興局農林水産振興部が共催で「農トレひだか」第2回セミナーを開催し、計11名の出席があった。

まず、暖地園芸センターにおいて、上山所長より研究概要や最新の研究状況についての説明を受けた後、村上育種部長の案内で研究施設の見学を行った。

続いて（有）小池園芸ほ場に移動し、代表取締役の小池氏から野菜苗、花壇苗の育苗技術について説明を受けながら、育苗施設を見学した。

出席者からは「最新研究の中で自身の営農活動に活かせる技術について、取り組んでいきたい」や「苗の管理方法を知れたので、今後、苗の特徴を理解した上で栽培していきたい」等、意見があった。



暖地園芸センター施設見学



（有）小池園芸施設見学

2. 「アッセンブル日高」がトレビスの試験栽培を開始

9月29日、日高町の若手農業者グループ「アッセンブル日高」（代表：白井雄太氏、青年農業士）では、ヨーロッパ原産の野菜、トレビスの試験栽培を開始した。

「アッセンブル日高」は日高町の若手農業者を中心に6人で構成され、耕うん、畝立て、定植の作業をメンバーらオペレーター部門が担い、水管理や病害虫防除、収穫などのほ場管理は参画農家が行うシステムの構築を目指している。農機を使う作業をオペレーター部門が行うため、参画農家には設備投資の必要がなく労働も軽減されるので、担い手不足や遊休農地の解消に期待がかかる。

メンバーの農地60aに今後導入予定の2台の定植機で苗を植え付け、試験栽培を実施し栽培方法を確立させる。試験栽培の結果を踏まえて、今後栽培面積を増やし、また他の野菜でもこの取り組みを広げられないか検討していく。



定植機



乗用定植機

VI 西牟婁振興局

1. 第29回 SUN・燦（さんさん）紀南農業者の集いを開催

標記集いは、西牟婁地方の農業者が、組織・年齢・生産部門などの枠を越えて、地域農業の発展について考え、取組につなげることを目的として、農業士会・生活研究グループ・4Hクラブで構成する実行委員会が開催している。今年度は、9月7日に「アイデアと元気な身体で農業振興」をテーマとして、紀南文化会館で実施し、3団体の会員と関係者併せて約70名が出席した。

株式会社はりまぜデザイン代表取締役 角田 誠氏から、直売所でシールを貼った農産物が増えてきたが、買う人目線で「知りたいことが分かる」や「良いと思ってもらう」デザインかどうかが重要として、具体例を交えた講演があり、その後実際にデザインを作成している参加者が、個別にアドバイスを受けた。続いて、株式会社フィットスタイルの黒沼多珠氏から、身体への負荷をあまりかけずに、椅子さえあればできる簡単ストレッチの紹介があり、参加者全員で楽しく身体を動かした。

また、農業水産振興課の上山普及指導員から農作業安全に関する情報提供を行い、終了後には4年ぶりに交流会も実施し、「厳しい状況の中、これからの農業経営の活力を得た」という意見があった。



講演（株）はりまぜデザイン事務所

2. クビアカツヤカミキリ現地研修会を実施

クビアカツヤカミキリに関する認識を深めるため、JAや各市町等関係機関等で構成する西牟婁果樹技術者協議会（会長：田ノ瀬佳男氏、JA紀南営農指導員）は9月21日、かつらぎ町で現地研修会を実施した。

かつらぎ町内のもも、うめ、すももの被害発生園において、伊都振興局農業水産振興課の矢部普及指導員及び間佐古普及指導員から被害確認後に取り組むべき対策や巡回調査時に注意する点、伊都地域が抱えている現状と課題について説明を受けた。その後、かき・もも研究所で弘岡主査研究員からこれまで和歌山県が取ってきた対策と現在取り組んでいる試験研究について、講習を受けた。

同会員はこれまで被害を直接見る機会が無かったため、大変有意義な研修となり、今後も関係機関と連携し、クビアカツヤカミキリの早期発見・早期対策に努める。



現地研修（かつらぎ町桃園）

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新規就農者育成を核としたイチゴの産地育成】 ～みくまの産地協議会、第3期修了生との面談会を開催～

9月15日、みくまの産地協議会（会長：石田 守氏）は、東牟婁振興局において、第3期修了生の成果確認と課題解決に向けた面談会を開催した。

修了生は、修得成果（農業技術・いちご栽培の基礎等）と課題（いちご栽培の実践と営農方針、販売経路、及び資金面等）の見解を述べた。

これに対し坂井普及指導員と当協議会の笹平場長からイチゴセミナー等で対応する旨の回答があった。さらに、亀井研修責任者から直売など個人出荷の助言があり、橋本普及指導員から経営開始資金の説明があった。

その後、県庁担当者が参加し、修了生に今後の就農支援策に係る事務手続を説明した。

今後、当協議会は、修了生を「青年等就農計画認定申請書」の作成や就農に向けて支援する。



産地協議会での面談会

2. いちごの花芽分化程度を確認

9月19日と22日にくろしお苺生産販売組合（松出真紀会長）は、JAみくまの営農経済センターにおいて、いちごの花芽分化程度を実体顕微鏡で確認した。

花芽分化程度の確認は、苗を定植する時期の決定、出蕾・収穫時期の予想に重要である。

当日は、生産者13名（内新規就農者5名）から採取した苗をJAみくまの職員1名、農業水産振興課3名が花芽の分化程度を確認した。

その結果、各苗の花芽分化が平年より4～5日遅れていたため、生産組合は、苗の定植時期を遅らせるように各会員に通知した。



花芽検鏡の様子

Ⅷ 農林大学校

1. 2年生市場研修を実施

9月25～29日に大阪市内の市場で市場研修を行い、本校2年生14名が参加した。果樹コースと野菜コースの学生は、大阪市中央卸売市場の大果大阪青果（株）と大阪中央青果（株）でそれぞれ研修を行い、花きコースの学生は、（株）なにわ花いちばで研修を行った。

研修では、競りの準備や、買い手の決まった農産物の仕分け作業、荷物の数量確認等を行った。また、講義では、市場の機能や競り、和歌山の農産物の特徴等について説明を受け、質疑応答も行った。

学生からは、「市場での農産物流通のしくみが分かってきた」「早朝からターレットやフォークリフトが忙しく走り回っていた」「朝が早くて眠たかった」という感想があった。

農林大学校では、農産物流通の実態を学ぶために来年度も引き続き市場研修を行う。



マツタケの競り



市場の作業体験

IX 農林大学校就農支援センター

1. 技術修得研修（第1班）の営農計画発表会/閉講式

9月8日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第1班）の営農計画発表会および閉講式を開催した。

技術修得研修（第1班）は、5月から9月まで5ヶ月間(計25日)、果樹・野菜・花きなどの栽培管理、病虫害の防除、農業資材・機械の安全使用などについて、講義や実習を通じて、専門的な知識や技術を身につけた。

営農計画発表会では、修了生(男女3名)がそれぞれの将来目標（「ザクロの安定的生産方法の確立と、地域の生産者・新規就農者への継承による栽培面積の拡大及び特産化の推進」、「土や水を活かした農業を地域で取り組んでいきたい」など）を発表し、意見交換を行った。

閉講式では、竹中所長から修了生一人一人に修了証書が手渡され、「本研修で修得した「基礎の部分」を土台にして、自ら勉強し、経験しながら、大変厳しい場面もそれらを乗り越え頑張ってください」と激励の言葉が送られた。

今回、修了生3名のうち2名が就農予定である。



営農計画発表



修了証書授与

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489